

ACANTHUS



イルミネーション点灯式 (香川キャンパス)

特集

学園創立120周年記念 ホームカミング アジア植物化学協会 発会シンポジウム 2015 徳島

Index

【特集1】学園創立120周年記念 ホームカミング …… 2	Close-up campus クローズアップキャンパス …… 8
理事長挨拶 …… 3	大学祭 ……13
学長挨拶 …… 4	Club & Circle クラブ・サークル……14
アカサス会会長挨拶 …… 5	先輩からの手紙 ……16
【特集2】アジア植物化学協会 発会シンポジウム 2015 徳島 …… 6	【連載】研究室への誘い 人間生活学部食物栄養学科 ……18





卒業生であふれる総合体育館



2,800 余名が母校に集う 学園創立 120 周年記念 ホームカミングを開催

学校法人村崎学園と徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部同窓会「アカンサス会」は、共催事業として、2015（平成27）年10月10日（徳島キャンパス）、10月17日（香川キャンパス）において、学園創立120周年記念事業の一環として「ホームカミング」を開催しました。

全学部・学科の卒業生に呼びかけ、全国各地から卒業生とご家族および現職旧教職員等2,800余名が参集し、母校の発展の現状をつぶさに見聞するとともに、恩師との絆、同窓生相互の親睦を深めました。

当日は、前アカンサス会会長藤田義彦教授によるご講演「科学捜査官物語～我が母校・徳島文理大学に感謝～」に始まり、その後、音楽学部板東久美教授の指揮によるワーグナー：楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲が演奏されました。祝賀ムードが一層盛り上がるなか、体育館にて式典が開かれ、高橋倫子アカンサス会会長の挨拶に続き、桐野豊学長、村崎正人理事長によるお言葉を賜りました。

食事や恩師との語らいが続く会場では、学生たちによる郷土の踊り「阿波踊

り」「エイサー」「よさこい（徳島キャンパスのみ）」の若々しく気品に満ちた演舞が次々と披露されました。その後は、音楽学部熊谷公博教授の先導による大学歌を全員で斉唱。いよいよ、最後のお楽しみ抽選会が始まると会場はさらに熱気を帯び、当選した景品を手にした喜びの声で包まれました。

別れの時が近づくと、充実した一日を過ごした笑顔や次の再会を誓って別れを惜む卒業生等の姿が学内随所にみられ、心温まる光景の数々が思い出に残る一日となりました。



学園創立 120 年にわたる歴史と新たな取り組みを披露する村崎理事長



理事長 村崎 正人

■ごあいさつ

卒業生の皆さま、お帰りなさい。ご家族の皆さま、ようこそいらっしゃいました。全国各地から2,800余名の皆さま方がお帰りくださいました。私はもとより、本学園関係者にとりましては、この上ない喜びであります。

さて、本日は、4つのことについてお話をさせていただきたいと思います。

1つ目は、「学園の歴史」についてです。わが村崎学園は、1895（明治28）年、村崎サイ先生が「女も独り立ちが出来ねばならぬ」と「女性の自立」を唱え、私立裁縫専修学校を創立されました。その後120年間、一貫して「自立協同」の建学精神のもと「人間の自立と学芸の独立」を掲げ教育に邁進してまいりました。そして現在、本学園は幼稚園から大学院博士課程までを備えた、一貫教育のできる西日本有数の総合学園となっています。

大学の歴史を振り返りますと、1961（昭

和36）年に短期大学を、1966（昭和41）年に大学を徳島キャンパスに開設して以来、6学部を順次創設。また、創立者ならびに私の故郷小豆島を望む香川県さぬき市に香川キャンパスを開設し、1983（昭和58）年に文学部、1989（平成元）年に工学部、2004（平成16）年に香川薬学部、2012（平成24）年に保健福祉学部の4学部を創設いたしました。現在、徳島文理大学は、6大学院、5研究所、1相談室、3専攻科、9学部26学科を有する文理融合の総合大学となっております。そして、安心して学生生活を送れるよう、1989（平成元）年から27年間かけて、徳島キャンパス・香川キャンパスすべての建物を耐震化したしました。

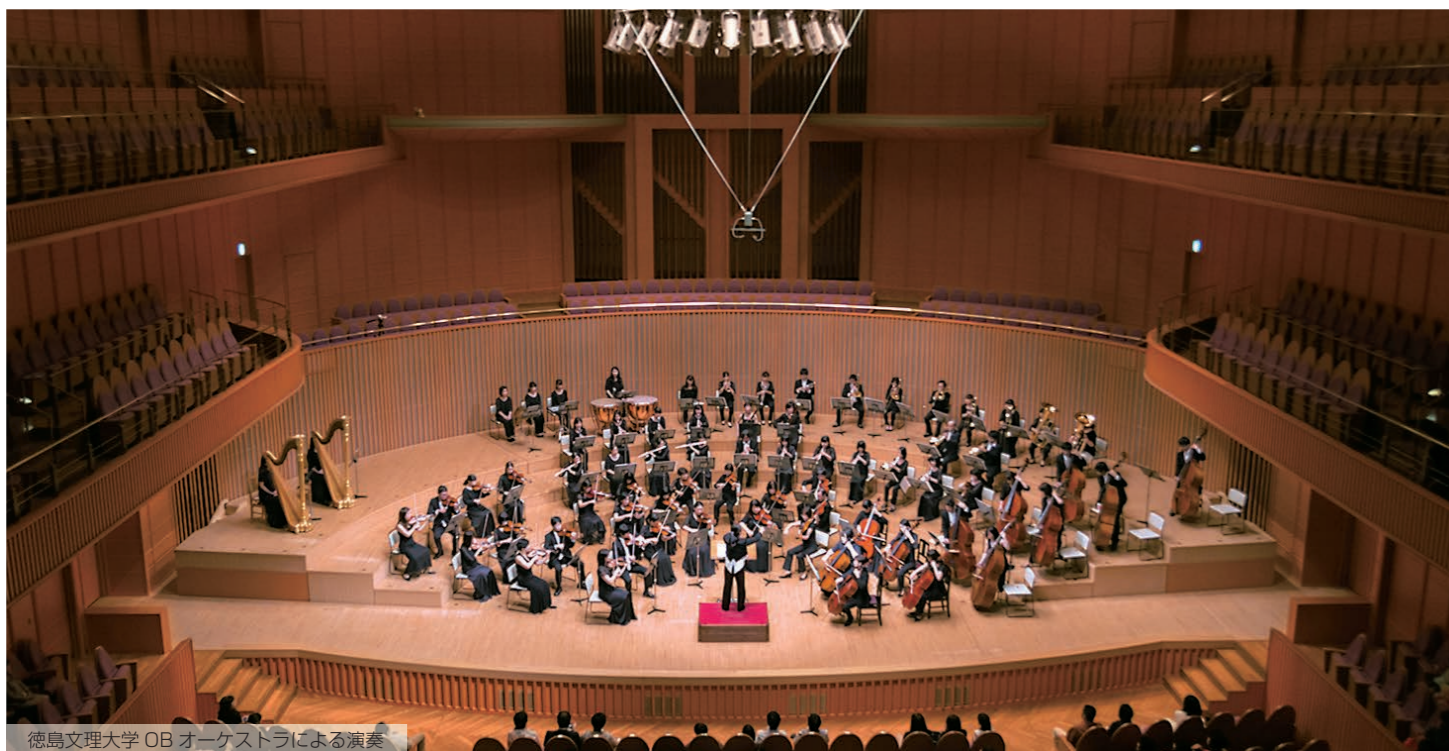
2つ目は、学生支援の充実についてです。本学独自の奨学金・特待生制度は、創立者「村崎サイ奨学金」「薬学部・香川薬学部特待生制度」「薬学部・香川薬学部地域貢献特待生制度」などさまざまな支援制度がありますが、この度、新たに「学園創立120周年記念徳島文理大学特待生制度」を設立しました。それは、毎年100名の学力優秀・経済的要件を満たす者に、大学4年間で100万円、短大2年間で50万円を給付するという制度です。さらに、同窓会会員のお子さまが入学された場合、一人につき10万円を給付する「アカンサス会奨学金」も設立されました。この奨学金基金募集に早速、ご支援くださった皆さまにお礼申し上げ、末永くこの奨学金制度が継続されますよう引き続きご支援をお願いいたします。

3つ目は国際交流についてです。教育の国際化を図るため、アメリカ・カナダ・

イギリス・オーストラリア・イタリア・オーストリア・スロベニア・韓国・台湾・中国・ベトナムなど11カ国37校と交流協定を締結し、交換留学・共同研究などをおし積極的に国際交流を推進しています。

4つ目は、地域連携についてです。本学はすでに地域の知の拠点として徳島・香川県をはじめ、地域や関連機関と種々の包括協定を結び、徳島音楽コンクールや公開講座をはじめとする多様な地域貢献に努めております。そして、2015（平成27）年3月に徳島キャンパスに地域連携センター・保健センター・450人収容のアカンサスホール等を備えた2号館が完成しました。ここを拠点に各種セミナーや公開講座を実施し、地域との繋がりを一層深めてまいります。また、2000（平成12）年には徳島文理大学OBオーケストラが結成され、すでに15回の定期演奏会を行っています。本日も、むらさきホールでOBと在学生による演奏会が実現しましたが、今後もさまざまな音楽演奏会を催し、音楽の魅力を地域に伝え続けたいと思っています。

本学はこれまでに66,000余名の卒業生を送り出してまいりました。本日、お集まりの皆さま方は、照らし合いの精神のもと、それぞれの立場でご活躍され、本学の名を高めてくださっています。本学も、皆さま方を照らしてゆくために信頼される大学であり続けるよう、さらに努力をしてみたいと思っています。皆さま、どうかご健康でご活躍ください。そして、また大学に帰って来られることを心からお待ち申し上げます。私の「ホームカミング」のあいさつとさせていただきます。



徳島文理大学 OB オーケストラによる演奏



徳島文理大学連による阿波踊りの披露



ホームカミング学長挨拶



前アカンサス会会長 藤田教授によるご講演



旧友や恩師との再会を喜ぶ参加者



大学の歌を参加者全員で斉唱



家族連れで賑わった「子どもの遊びコーナー」



抽選会の景品を手に嬉しそうに会場を後にする参加者



学長 桐野 豊

Greater TBU

A という都市とそれを取り囲むいくつかの衛星都市があって、A 市の機能に衛星都市の存在が不可欠である場合、その地域を greater A area と呼ぶことがあります。本学を取り囲む組

織として最も重要なものは、同窓会＝アカンサス会です。アカンサス会は、66,000 余名の会員を擁し、わが国の大学同窓会としては、大規模な同窓会組織であります。

本年度、学園創立 120 周年を記念して、アカンサス会はいくつかの記念事業を行っていただきました。10 月 10 日(土)徳島キャンパス、17 日(土)香川キャンパスにおいて、アカンサス会と本学が合同で開催した「ホームカミング」には、2,800 余名の同窓生がお越しくださり、かつての同級生・先輩・後輩や恩師との旧交を温める楽しい時間を過ごされました。11 月 8 日(日)と 15 日(日)には、「学祖村崎サイのふるさとを訪ねて」というテーマのもと、小豆島への旅行が開催されました。さらには、同窓生のお子さまが本学に入学した際には、奨学金を支給する「アカンサス会奨学金」事業を開始するなど、

本学を支援する事業を次々と実施していただき、心より感謝している次第です。

学生の皆さんも、卒業と同時にアカンサス会に入会して、在学中には得難い、広いネットワークに参加することができます。すなわち、卒業後も greater Tokushima Bunri University の一員であり続けることとなります。

これまでアカンサス会香川県支部では、在学生とともに、国内外への旅行を開催していただきました。大学としても、山城祭および杏樹祭実行委員会と協力して、大学祭にアカンサス会員の皆さまをお招きするなど、卒業後も頻りに大学を再訪していただく機会を作っていくことで、アカンサス会と本学、両者の連携をさらに強固なものにしていきたいと考えています。



アカンサス会会長 高橋倫子

ごあいさつ

アカンサス会員の皆さま、ようこそ母校にお帰りくださいました。懐かしい恩師の先生方、お忙しい中、私たちのホームカミングにお運びいただき、心より感謝申し上げます。

学祖村崎サイ先生が徳島の地に女子教育の場を設けて以来、学園は実に 120 年の輝かしい歴史を刻み続けてまいりました。皆さま方のご覧になったとおりすばらしい大学となり、さらに進化・発展を続けております。

先日始まった NHK の朝のドラマは、日本女子大学の創設に尽力した広岡浅子という明治の実業家であり教育者でもあった女性がモデルとなっているそうです。サイ先生が女子の自立をうながし、人間教育・社会的地位の向上をめざして学園を創立した同じ時代に当たります。サイ先生は『あさがきた』のように、『サイ一代記・サイちゃんが行く』あるいは『妻をめとらばサイたけ』など、先生をモデルにした朝ドラが作られても何ら不思議はない明治の偉人であられました。

「女も独り立ちが出来ねばならぬ」、サイ先生の掲げられたこの建学の精神

は、男女共学となって久しい今、校は「自立協同」として本学教育の礎となっています。学園の黎明期に思いをいたす時、120 年の伝統をひしひしと感じる今日、卒業生の一人として、この上ない誇らしさと晴れがましさ湧きあがってまいります。そして、このたび村崎学園創立 120 周年記念「ホームカミング」を全面的にサポートくださった理事長先生、学長先生はじめ母校の諸先生方の温情に心からの感謝をささげつつ、ごあいさついたします。

アカンサス会事務局

〒770-8514
徳島市山城町西浜傍示 180
徳島キャンパス アカンサス会事務局

【TEL】
088-602-8726 (直) (平日 10:00 ~ 15:30)

【E-mail】 acanthus@tks.bunri-u.ac.jp

(Inaugural Symposium of Phytochemical Society of Asia 2015 Tokushima) : (ISPSA2015Tokushima)

日本初 アジア植物化学協会 発会シンポジウム 2015 徳島を開催して

徳島文理大学薬学部教授 浅川義範



2015 (平成 27) 年 8 月 30 日(日)から 9 月 2 日(火)まで 4 日間、徳島文理大学徳島キャンパスのむらさきホールにおいてタイ王国第三王女 Chulabhorn Mahidol 様を基調講演者にお迎えし、27 カ国 400 人 (うち外国人 130 人) の参加者を得てアジア植物化学協会 (以下、PSA と略す) 発会シンポジウム 2015 徳島 (Inaugural Symposium of Phytochemical Society of Asia 2015 Tokushima) がマレーシア天然物協会、フィリピン天然物協会、日本生薬学会、日本油化学会、日本香料協会、日本蕨苔類学会、徳島県、徳島新聞社、徳島文理大学の協賛を得て盛大に行われました。これまで PSA はアジア地域で開催された国際天然物会議、生薬会議、薬用植物・植物化学シンポジウムなどを共催してきましたが、PSA 独自のシンポジウムは今回が初めての開催であります。

本シンポジウムは、アジア各国で活躍する植物化学者が一同に徳島に集まり、生薬学、薬用植物学、生物工学、精油化学、植物毒性学、伝統医薬、植物療法、薬理活性物質の全合成、生合成などの成果を持ち寄り、お互いの知識や技術などを共有し、特に大学院生や博士研究員の活発な交流を図り、人体に優しい医薬品、安全で高品質な機能性食品、食品添加物、化粧品などの開発を目的としています。

8 月 29 日(土)はパークウエストンにて参加者の登録後、Get together Party を開催し、地元ワインや海鮮料理を堪能しながら旧友との再会や新人同士の交流が夜遅くまで続きました。

同日午後には徳島阿波おどり空港に本 PSA 名誉会員でもあるタイ王国王女様が随員 51 人とともに降機され、翌 30 日(日)には学園の皆様、参加者の方々がタイ王国および日本の小旗を振る中、王女様一行は 7 台の車で本学に到着しました。理事長、学長、組織委員長、各部署長が出迎え、本シンポジウムのオープニングセレモニーにご出席されました。

筆者 (ISPSA 組織委員長)、理事長、学長の歓迎挨拶、記念品の贈呈式、記念写真撮影などのオープニングセレモニーの後、王女様から「Natural Products with Anticarcinogenic/Chemopreventive Properties from Thai Biological Resources」と題してタイ薬用植物から新規抗がん、抗酸化、各種酵素阻害活性成分の単離、構造、薬理活性を含むすばらしい系統的植物化学研究成果の基調講演をいただき、万雷の拍手が鳴りやみませんでした。王女様は Chulabhorn Research Institute の学長であり、新規抗がん薬の開発および環境関連の研究を活発に展開されています。また海外にて多数の基調講演をされ、自国で毎年天然物化学および環境関連の国際会議を開催されておられる偉大な自然科学者であります。

本シンポジウムには国際雑誌 Phytochemistry, Phytochemistry Letters, 元 Planta Medica 編集委員長、元北アメリカ植物化学協会会長、元ヨーロッパ植物化学協会会長、現会長、PSA 副会長、アルゼンチン・ツクマン国立大学学長、ジュネーブ大学学長、ルブリン医科大学副学長、元イリノイ大学薬学

部長、マレーシア天然物協会会長、フィリピン天然物協会会長、国際伝承薬学会会長、日本油化学会会長などが参加され、特別および招待講演を行いました。

9 月 2 日(火)にはタイ王国大使臨席のもとタイ王国国営テレビ局とのインタビューが生まれ、王女様が本学に来られた理由、王女様と筆者とのこれまでの交流や研究の接点などの取材を受けました。

筆者が 1985 (昭和 60) 年、クアラルンプールで王女様の基調講演を拝聴した際、最初のスライドに筆者の研究内容が記載されていました。王女様主催のお茶会が別室で催された際、王女様に「最初のスライドに記載された Asakawa は私です」とお話ししたところ、とても喜ばれ、それ以来王女様とはカトマンズ・カラチ・ハワイ・ルブリン・スラバヤ・上海などで 13 回お会いしており、王女様グループと我々の研究内容が近似していることなども含めて、本シンポジウムがタイ王国全土でも放映されました。

本シンポジウムは前述の王女様の基調講演、筆者の閉会講演、15 件の特別講演、16 件の招待講演、67 件の一般口頭発表と 118 件のポスター発表からなり、特別講演および招待講演はもとより一般講演、ポスター発表の質の高さは抜群でありました。なお、ポスター賞銀賞を当薬学部島山大博士が受賞しました。

本シンポジウムのバンケットはホテルクレメント徳島であり、乾杯は本学オリジナルの白ワインが、肉料理に赤ワインが寄贈

されました。さらに、阿波踊りの悠久連と参加者の総踊りが披露され、バンケットは大いに盛り上がりました。8 月 31 日(月)が筆者、また 9 月 1 日(火)が特別講演者 Prof. Cordell 氏の誕生日と重なり、筆者にはタイ王国王女様からメッセージ入りの花束を、Cordell 氏は似顔絵入りの色紙やワインセットをいただき、大いに祝福されました。本 PSA シンポジウムは 2 年に 1 回、アジア諸国で開催されることを理事会で決定し、2017 (平成 29) 年にはカラチ大学 (パキスタン)、2019 (平成 31) 年はトルコ、2021 (平成 33) 年は中国で開催されます。

最後に、基調講演のために遠路タイ王国からお越しいただき、花束をご恵みいただいた Prof. Dr. HRH Princess Chulabhorn Mahidol 様およびご一行様に心よりお礼申し上げます。また王女様およびご一行様の来徳に際し、貴重なご意見をいただき、お世話になった東京タイ王国大使 Sihasak Puangketkeow 様、鳥田康弘総務部長様ほか大使館員の方々、また Chulabhorn Research Institute 副学長 Somsak Ruchirawat 教授ご夫妻にお礼申し上げます。

本シンポジウム開催にあたり大学各施設をお貸しいただき、歓迎の挨拶をしていただいた、村崎正人理事長、桐野豊学長、準備のためにお世話になった各部署の先生方、事務職員、学生諸氏および多大のご援助をいただいた徳島県観光協会をはじめ企業および個人の方々に PSA を代表して心より感謝いたします。

新設

**看護学研究科博士後期課程（四国私立初）
総合政策学研究科修士課程（四国初）**

2016（平成28）年4月より、四国の私立大学で初めて看護学研究科博士後期課程と四国で初めて総合政策学研究科修士課程を新設します。社会人の方も学べる環境とするため、夜間開講や土日の集中講義、長期履修制度を設けています。それぞれの研究科の特長は、次のとおりです。

看護学研究科博士後期課程

- 看護学研究科博士後期課程は、看護学研究者・教育者・管理者および学術性の高い研究的に課題解決できる看護専門職者を養成します。
- 2014（平成26）年に設置された看護学研究科修士課程の第1期生は、2016（平成28）年3月に修士（看護学）の学位が授与される予定です。なお、看護学研究科修士課程は2016（平成28）年に博士前期課程となります。

- * 標準修業年限：3年
- * 取得できる学位：博士（看護学）
- * 学問分野

区分	分野
基盤看護学	「理論看護学」 「看護教育管理学」
実践看護学	「療養支援看護学（臨床）」 「療養支援看護学（地域・在宅）」 「母子看護学」

総合政策学研究科修士課程

- 総合政策学研究科修士課程は、法律・行政・経済・金融・企業経営に関する高度な研究や、政策実施現場での経験を通じ、地域社会の抱える問題を解決するための政策立案能力を身につけた人材を養成することを目的とします。

- * 標準修業年限：2年
- * 取得できる学位：修士（総合政策学）
- * 専門分野

区分	学問分野
公共政策	「公共・法政策」 「金融・経済政策」 「地域社会政策」
企業政策	「民商法政策」 「企業経営政策」

薬学部

第1回 徳島県科学技術大賞 受賞

薬学部 准教授 堂上美和



徳島県知事より表彰状を授与される堂上准教授



この度は、徳島県科学技術大賞を受賞することができ、大変うれしく思っております。この賞は、徳島県の科学技術の発展および振興を図るため、科学技術に関する研究開発・理解増進などに顕著な成果を収めた者への顕彰を目的として本年度から開始された事業です。第1回目の受賞者に選ばれたことは大変光栄であり、今後の研究への励みとなりました。私は、アルツハイマー病に代表される神経変性疾患の予防・治療薬の候補化合物を天然物から探し出すという研究を行っており、さまざまな植物から有用な化学成分を見つけています。特に、ジャワショウガに神経細胞を賦活化させる成分が多く含まれることを発見し、アルツハイマー病予防食材としての可能性を見いだしております。

この研究が、難病である神経変性疾患の治療・予防に少しでも役に立てればと願い、今後本学にて教育と研究に尽力し、徳島県の科学技術発展に貢献するとともに、世界へ発信していきたいと思っております。

薬学部

**「薬物乱用防止功労者」に対する
徳島県知事表彰を薬学部が受賞**



授賞式に参加した薬学部教員

麻薬・覚醒剤・大麻・シンナー・危険ドラッグ等の薬物乱用は、薬物乱用者個人の健康上の問題にとどまらず、各種の犯罪の誘因など公共の福祉に計り知れない危害をもたらすことは周知の事実です。このような薬物乱用の弊害を認識し、以前から薬学部教員および学生が薬物乱用防止指導員として、「危険薬物の撲滅」をめざした啓蒙活動を学内外で積極的に推進してきました。

2015（平成27）年11月25日（水）に開催された「麻薬・覚醒剤乱用防止運動徳島大会」において、永年にわたる薬物乱用防止運動の推進に寄与した功績に対して本学薬学部が徳島県知事表彰を受賞しました。

今後も、薬学部の教員と学生が協働して危険薬物の種類および危険薬物使用の弊害を県内の若者に認識させ、薬物乱用を撲滅していくための運動に積極的に取り組んでいく所存です。

連携協定

**徳島新聞社と連携協定
地域活性化事業を展開**

本学と徳島新聞社は地域貢献の推進に向けた連携協定を締結しました。

地域社会の発展のため、お互いの人的・物的資源やノウハウを有効に活用し、徳島県を中心とした地域の活性化に向けた人材育成、振興・再生に向けた事業の実施・支援、社会発展に向けた調査・研究などを連携して行います。

徳島新聞社と本学が持つ、保健・医療・福祉から理工、薬学、文学、音楽、人間生活、総合政策、短期大学まで多彩な9学部26学科を有する総合大学の強みをいかした連携を今まで以上に推進し、地域活性化事業の展開をめざします。



徳島新聞社の植田社長（左）と本学の桐野学長（右）



調印式に参加した徳島新聞社の方々和本学関係者

連携協定

徳島県看護協会と連携協定 県民の健康生活に寄与するために！



徳島県看護協会との連携協定調印式

本学と徳島県看護協会は、看護の人材育成と定着を推進し、あわせて看護職の教育と研鑽に根ざした専門性の向上および看護領域の開発・発展を図り、県民の健康生活の実現に寄与することをめざして、徳島県看護協会の森山会長と本学の桐野学長が調印し、連携協定を締結しました。

協定内容には、「在学生が地域の看護の担い手として活躍する仕組みを作る」「地域の課題解決や地域住民の健康・福祉の向上のため、相互の知的財産・施設設備等を活用する」「地域の看護職の方を対象とした各種サービスを相互に協力して提供する」等が盛り込まれております。

総合政策学部

集客交流産業論を開講！

総合政策学部 教授 床桜英二

徳島の魅力を再発見し、磨きをかけ人を呼び込むための「鍵を探る」ことを目的にした公開授業「集客交流産業論」は、2015（平成27）年9月30日（休）からほぼ毎週水曜日に開講しており、既に大学内外から延べ3,000人の方々が受講されております。人口減少・東京一極集中のなかで、地方の自治体は生き残りをかけ地方創生総合戦略の策定と、それに基づく行動を開始しており、成功のヒントを得ようと、毎回多くの自治体関係者が聴講されております。また、地方創生の流れを新たなビジネス展開にいかそうと多くの企業関係者も参加されております。

飯泉徳島県知事による「なぜ地方創生なのか？」から始まった本講座は、①人の流れをつくる ②新たな働き方をつくる ③地域資源をいかすの3つの柱で構成し、毎回地域課題解決に大きな成果を挙げ、全国からも注目されている方々に「移住」「サテライトオフィス」「地域からの海外戦略」などの講義を行っ



飯泉徳島県知事による講演の様子

ていただいております。講義内容については、毎回読売新聞に大きく取りあげられるなど反響を呼んでおり、何よりも学生の皆さんが積極的に受講し、自らの将来に思いを巡らせながら、積極的な発言が増えてきていることは喜ばしいことです。

新年度においてもバージョンアップした「集客交流産業論」を開講し、「地方創生を学ぶなら徳島文理大学へ」と多くの皆さまに思っただけのようしっかりと取り組んでまいります。

防災 防災

減災科学シンポジウムを開催！

地域連携センター 副センター長 床桜英二

地域連携センター発足を記念し、2015（平成27）年11月2日（月）、県との共催により、減災科学シンポジウムを開催しました。「南海トラフ巨大地震は確実に起きる、それも2038年ごろだ」との尾池京都造形芸術大学学長（元京都大学総



パネルディスカッションの様子

長）の基調講演で始まったシンポジウムには、大学内外から500人を超える方々が聴講されました。俳人でもある尾池先生のユーモア溢れる軽妙な語りで、巨大地震のメカニズムや減災・防災対策の大切さを分かりやすく解説していただきました。またパネルディスカッションでは、飯泉徳島県知事は、「危機管理を県政の最重点課題に位置づけ歴史の教訓を踏まえつつ、一歩先の減災・防災対策を進めることで、『死者ゼロ』をめざしていく」との強い決意を述べられました。

小笠原大塚製薬工場社長は、輸液国内トップシェア企業の社会的責任を果たすため経営戦略の中核に防災対策を据え、集中的な防災・減災投資とともに、地域連携を一層強化していくことが大切と述べられ、また、金田名古屋大学教授は、海底観測網（DONET）など最先端科学技術を紹介し、学問の枠を超えた取り組みが大切と述べられました。

本学は全ての校舎の耐震対応が終了しており、この強みを最大限いかすためにも、学部の枠を超え、学生・教職員が一体となった主体的な取り組み、まさに本学の建学の精神「自立」と「協同」を軸とした減災・防災の実践が今こそ求められることを私もお話させていただきました。このシンポジウムを契機に、皆さま方のご支援・ご協力のもと、南海トラフ巨大地震を迎え撃つ、実効性の高い「減災科学プロジェクト」の展開を図ってまいります。

同窓会

学祖のふるさとを訪ねる 小豆島の旅

学園創立120周年を記念して「学祖のふるさとを訪ねる小豆島の旅」がアカンサス会によって企画され、桐野学長をはじめ多くの徳島・香川両キャンパスの教職員と卒業生が参加しました。

秋風が爽やかな2015（平成27）年11月8日（日）と15日（日）、同じ行程で小豆島に渡りました。美味しい食事の後、エンジェルロードを歩きました。それからいよいよ村崎サイ先生のご生誕の地である高橋商店様を訪れ、かつてサイ先生がお歩きになったのではないかとこの道を踏みしめました。ここから建学の精神が生まれたのだと思うと、まるで自分のふるさとを訪れたような懐かしさに似たものがこみ上げてきました。高橋様にご案内いただきて墓前に手を合わせると傍らのコスモスの花が優しく揺れ、サイ先生がほほえんでくださっているようでした。その後、右手には穏やかな瀬戸の海、左手には紅葉の美しい山という豊かな自然を楽しみながら、私たちは二十四の瞳映画村やオリブ公園を巡り帰路につきました。本当に和やかで、とてもすてきな旅でした。



二十四の瞳 銅像前にて

語学センター

第4回 語学センターフェスティバル 英語暗誦コンテスト



英語暗誦コンテスト参加者と審査員の皆さん

2015（平成27）年11月14日（日）、徳島キャンパスのアカンサスホールにて「第4回語学センターフェスティバル 英語暗誦コンテスト」が開催されました。このコンテストでは英語による有名なスピーチを題材とし、それを理解・暗記し、自分らしく表現するという、英語学習に必要な要素すべてが要求されます。厳正な予選審査を勝ち進んだ出場者（高校生部門10人、大学生部門14人）が、当日は素晴らしいパフォーマンスを披露してくれました。審査会議中には、音楽学部・短期大学部音楽科の学生によるミニコンサートが催されました。なお、入賞者は以下のとおりです。

- 【大学生部門】最優秀賞：明神佳乃（短期大学部言語コミュニケーション学科2年）
優 秀 賞：仲根百合（短期大学部保育科1年）
奨 励 賞：高村祥可（香川薬学部薬学科1年）
- 【高校生部門】最優秀賞：大谷航太（香川県立琴平高等学校1年）
優 秀 賞：吉川森璃（徳島県立鳴門高等学校1年）
奨 励 賞：伊澤奈那（徳島市立高等学校2年） ※敬称略

文学部

文学部文化財学科の学生の企画・運営による展覧会 第7弾 「残された石の声—石がつなぐ小豆島と大坂城—」展

学芸員資格取得をめざしている2～4年生12人の学生が企画・運営する展覧会が2016（平成28）年2月13日（土）から3月13日（日）まで高松市石の民俗資料館で開催されます。約1年半を費やして、調査研究・企画会議・学習会・展示資料借用交渉・広報（ポスター・チラシ作成）・イベント企画・演習具制作・パンフレット作成・キャプション（解説文）作成など、展覧会開催に関わるさまざまな仕事を学生たちが分担して準備を進めてきました。



本展では、2013年度から教員と学生が共同で進めている香川県小豆島内に所在する古文書調査で明らか

となった、小豆島における石丁場や徳川幕府2代将軍秀忠によって再築された大坂城の石垣（小豆島から運ばれたものが数多くある）に関わる資料を「文献」「石材」「地形」の3つの観点から紹介します。展示資料の中でも、2015（平成27）年9月に香川県有形文化財に指定された「慶長小豆島絵図（1605年作製）」が注目されます。

学生たちは、この取り組みを通じて自らの「主体性」、相互に助け合う「協調性」、実社会と接する中で「責任感」を育てることができ、まさに本学の建学精神『自立協同』を体現したと言えます。



大坂城石垣調査

人間生活学部

メディアデザイン学科の学生作品「ぼんぼこ—阿波の狸の物語」制作発表会 徳島市立図書館が運営する電子図書館から全国配信

徳島市電子図書館ホームページ

<https://www.d-library.jp/tokushima/g0101/top/>

2015（平成27）年11月7日（日）、シビックセンターにてメディアデザイン学科の学生が制作した電子書籍「ぼんぼこ—阿波の狸の物語」の制作発表会を開催しました。

本作品は徳島市立図書館より、徳島の豊かな文化を発信する地元発の作品を制作してほしいと依頼があり、メディアデザイン学科の長濱研究室の学生が卒業制作で制作しました。徳島文理大学名誉教授の飯原一夫先生から原作をお借りし、徳島の狸の昔話を32話（114ページ）と36枚の絵で構成しました。また、子どもたちにも親んでもらうために、絵をアニメーションにしました。全国の誰でも、PCだけでなくスマートフォンからでも閲覧できる認証フリーの作品として、徳島市立図書館が運営する電子図書館で公開しています。

制作発表会での学生の朗読に、来場者から「学生さんの朗読

がすばらしく、鳥肌が立った」との感想が届きました。それを受けた図書館からの熱い要望で、学生の朗読が再生できる機能を追加することになりました。また、先進的な取り組みとして、第18回図書館総合展に出展する方向で話が進んでおります。



完成した電子書籍が披露された制作発表会

国際
交流

スウォン 徳島文理大学・水原大学校音楽学部 交流演奏会を開催

2015（平成27）年9月9日（水）に、本学音楽学部ウィンドオーケストラ団の学生たちが、交流協定を結んでいる韓国・水原大学校（韓国華城市）ベルカントアートセンターで初めて演奏会を開きました。水原大学校音楽学部と合同オーケストラを結成し、オペラ曲や映画主題歌など両国の学生になじみのある9曲を披露しました。

指揮の板東久美先生率いる音楽学部1～4年生と専攻科生ら25人に水原大学校音楽学部生52人が加わり、4時間ほどの合同練習にもかかわらず、本番では息の合った演奏で約800人の聴衆を沸かせました。

参加した音楽学部4年の秋山綾音さんは、「韓国の学生はパワーがあり、演奏会では言葉が通じなくても音楽をとおしく楽しく交流することができました。親切にしてくださった水原大学校の皆さんに感謝し、この経験をこれからの音楽活動にいかしていきたいです」と感想を述べました。

演奏団は、9月8日（火）から9月11日（金）までの4日間韓国に滞在し、水原大学校見学・学生間交流・ソウル市内研修などを体験しました。今後も定期的な開催を予定しています。



聴衆を魅了した徳島文理・水原両大学生による合同演奏会

音楽
学部

第7回 徳島音楽コンクール 「入賞記念ガラコンサート」



グランプリ（ピアノ部門）石井絵里奈さん（左）と（弦楽器部門）大杉花奈さん（右）

2015（平成27）年10月11日（日）、12日（月）祝の2日間に渡り開催した、「第7回徳島音楽コンクール」の金賞受賞者が出演する「入賞記念ガラコンサート」を、同年11月7日（土）、むらさきホールにて開催しました。

午前10時に開演した第1部は、各部門の金賞受賞者全員（第2部出演者を除く）が出演する「金賞受賞者コンサート」で、未就学児の部の愛らしい演奏から大学一般の部の成熟した演奏まで、さまざまな演奏が楽しめるコンサートとなりました。

また、午後3時に開演した第2部は、各部門の代表に選ばれた8部門8人による「グランプリオーディション」として開催されました。徳島音楽コンクール会長である村崎正人理事長、同顧問の飯泉嘉門徳島県知事、植田和俊徳島新聞社理事社長をはじめ、計15人の審査員によって審査が行われました。見事グランプリに輝いたのは、ピアノ部門の石井絵里奈さん（大学一般）、弦楽器部門の大杉花奈さん（大学一般）の2人で、審査員特別賞には、邦楽器部門の庄野文哉さん（高等学校）、電子オルガン部門の濱口明日香さん（中学校）の2人が選出されました。なお、グランプリを受賞した2人は、今年夏に開催される演奏会で一流オーケストラと共演する予定となっています。



学生によるコンサート（徳島キャンパス）

両キャンパスともに毎日17時から21時までイルミネーションを点灯しており、2016（平成28）年2月14日（日）までご覧いただくことができます。光り輝くキャンパスにぜひお越しください。

山城祭を終えて（徳島キャンパス）

2015（平成27）年は学園創立120周年を迎えた特別な年なので、テーマを「WITH YOU 120th」とし、山城祭に関わってくださったすべての皆さまと一緒に楽しみ、盛り上げていこうという気持ちをテーマに込めました。

120周年にふさわしい山城祭にするため、宝探し・ビンゴ大会など、多くの皆さまに参加してもらえる催しを実施しました。野外ステージでは、力一杯の演技に観客が心打たれる場面もあり、模擬店では心を込めて商品を提供し、ともに楽しんでいただけたと思います。体育館ライブは、「よしもと芸人お笑いライブ」で、大人から子どもまで大勢の方にお越しいただき、心から笑って楽しんでもらえたと思います。

昨年もたくさんの方々から助けていただきながら、無事開催することができました。これも周りの方々の支えがあってこそだと改めて感じました。私たちのことを応援してくださった方々に感謝し、伝統ある山城祭をよりすばらしいものにするために第52回へとつなげていきたいと思えます。ありがとうございました。



杏樹祭を終えて（香川キャンパス）

第30回杏樹祭は2015（平成27）年10月31日（土）から11月1日（日）の2日間、「STORY～ここから始まる～」をテーマに30回という節目の年の杏樹祭となりました。地域の方々もたくさん来ていただき、成功のうちに終わることができて安心しています。

杏樹祭運営の中で一番大変だったことは、大勢の人をまとめるということです。今まで何かのリーダーになんかできなかった私たちにとっては大きなチャレンジでした。たくさんミスもしたし、うまくいかない状況に泣きたくなることもありましたが、そのたびに支えてくれる人たちの存在に気づくことができました。

杏樹祭の運営をとおして、大学の講義だけでは学べない多くのことを経験し、成長することができたと思います。杏樹祭に関わってくれたすべての皆さまに感謝します。本当にありがとうございました。



イベント

キャンパスを彩る光 第10回 イルミネーション点灯式 開催

冬の風物詩として定着したイルミネーション点灯式が、徳島キャンパスでは2015（平成27）年12月3日（水）、香川キャンパスでは12月4日（木）に開催されました。

徳島キャンパスでは、村崎理事長、桐野学長、学生代表が点灯スイッチを押すと35万球のLEDが一斉に点灯し、集まった人々から歓声があがりました。点灯後は、音楽学部・短期大学部音楽科の学生によるコンサートや児童学科の学生によるパ

ルーンアートのプレゼントがあり、訪れた皆さんと楽しい時間を共有しました。また、香川キャンパスでは、7万5,000球のLEDが点灯し、志度中学校吹奏楽部、大学祭歌うま王座の優勝者、ダンス部、ゴスペルサークル、Bunriハンドベルクワイアによるコンサートやダンスなどを披露しました。最後は理工学部が製作した電気自動車に乗った学生サンタからのプレゼントセレモニーで盛り上がりしました。

クラブ・サークル 大会結果

徳島キャンパス

- 弓道部
 - ・第61回中四国学生弓道選手権大会/女子団体予選通過(四国地区2位通過)選抜出場決定
- 準硬式野球部
 - ・2015四国地区大学準硬式野球秋季大会/優勝
- 女子バスケットボール部
 - ・全日本大学バスケットボール選

- 手権大会四国予選大会/優勝
最優秀選手賞
 - 人間生活学科3年 上里愛花
 - 人間生活学科3年 大城彩香
- フットサル部
 - ・KING JAPAN FESTIVAL 2015秋 in 淡路島大会/優勝
- 陸上競技部
 - ・第38回中国四国学生陸上競技選手権大会
 - 女子10000メートル決勝/2位

- 食物栄養学科2年 能瀬亜紀

- 軟式野球部
 - ・2015四国地区大学軟式野球秋季リーグ/優勝

香川キャンパス

- トレーニング部
 - ・第70回紀の国わかやま国体公開競技パワーリフティング105kg級/4位入賞
 - 香川薬学部6年 木原 優

- 弓道部
 - ・香川県下大学弓道選手権大会
 - 女子個人/優勝
 - 臨床工学科3年 宇高絵里
 - 女子個人/2位
 - 日本文学科1年 河見昌可
 - 団体/3位
 - 徳島文理大学Cチーム
 - (多田智基・宇高絵里・河見昌可)

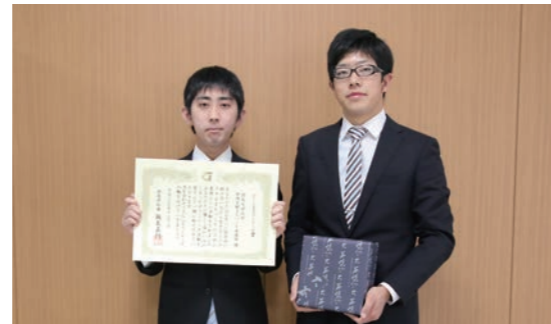
クラブ・サークルの活躍 受賞者の声 (徳島キャンパス)



私たちフットサル部は、火曜日と土曜日の週2回練習を行っています。2015(平成27)年度に行われた第66回四国地区大学総合体育大会では、昨年の大会で敗れた香川大学やライバルの愛媛大学に勝利し、優勝することができました。昨年の第65回大会では惜しくも準優勝に終わってしまい、大変悔しい思いをしたので、今回の優勝は特別なものとなりました。また、OBの方々や学校関係者の方々からの祝福を受け、自分たちだけで部活動が成り立っているわけではないと再認識することができ、さらに日々の練習をがんばっていかうと思えた大会でもあります。今では、先輩方が引退して心細く感じる部分もありますが、第67回大会での優勝をめざし、プレイヤー11人、マネージャー5人の16人で支え合いながらがんばっていきますので応援よろしくお願いたします!



地域貢献まちづくり後援部は、ボランティアや地域活性化のための活動を行うことを目的に活動を始め、その実績が認められ同好会から部となりました。現在、月1回最初の平日の朝、徳島キャンパス周辺の清掃活動、その他ビーチクリーン大作戦「アクアソーシャルフェス」や、四国の大学で結成している「グリーンパード」徳島チームへ参加するなどさまざまな清掃活動に参加し、地域をよくしていくために活動を行っております。今回、私たちの活動が評価され、飯泉徳島県知事より「とくしまボランティア賞」をいただきました。顧問の先生をはじめ関係者の方々、設立当時から先輩方の努力や支えがあったからこそ今回の受賞につながったと思います。今回の受賞で満足するのではなくこれからも先輩方から受け継いだ伝統をより良いものに、賞に恥じることがないよう、さらに精力的に活動を広げたいと思います。



ハーネス連より徳島文理大学連に感謝状



ハーネス連の皆さんと本学関係者

徳島文理大学連は、一年を通して、学生連らしく若さや活気溢れる阿波踊りを踊っています。連員のほとんどが「阿波踊り」に魅せられて、入学後に阿波踊りを始めています。徳島県出身者はもちろん、県外出身の連員も多く、男女問わず楽しく活動しています。そんな私たちは毎年、お盆(8月12日から15日)に行われる阿波踊り初日に、ハーネス連の皆さんと一緒に踊らせていただいています。視覚障がいのある方とそれを支える盲導犬や、ボランティアの方々や演奏場で踊るため、本番前に合同で練習を行いました。「踊りはハーネス」といった掛け声を入れながらともに踊り、昨年の夏も楽しく良い経験となりました。今回、このような感謝状をいただき大変光栄に思います。今後もハーネス連の皆さんと踊ることができるよう、交流を深め、練習に励んでいきたいと思ひます。

クラブ・サークルの活躍 受賞者の声 (香川キャンパス)



私は2015(平成27)年9月に行われた紀の国わかやま国体公開競技パワーリフティングにおいて、4位入賞を果たすことができました。トレーニング部を立ち上げて5年目となるその節目の年に、国体という大きな舞台で実績を上げることができ、本当に良かったと思います。私がトレーニングを始めた目的は高校から続けていた柔道の補強のためでした。当時は今ほど器具もそろっておらず、トレーニング部もありませんでした。しかし、他部の先輩方と試行錯誤しながら練習を積み、柔道で高校時代を上回る成績を残しました。この経験から、競技力向上をめざす仲間の手助けができればと思い、トレーニング部を立ち上げました。現在では、本学のトレーニングルームは香川県下でも屈指の設備を誇っています。パワーリフティング競技だけでなく、他の競技の力向上にも役立っています。また、国体選手や中四国で活躍する多くの優秀な選手も育っています。皆さん、ぜひ一度トレーニング部に足を運んでみてください。(香川薬学部 木原 優)



私は、2015(平成27)年度第66回四国地区大学総合体育大会の陸上競技ハンマー投げで優勝しました。ハンマー投げは高校1年の秋から始め、怪我や技術的なスランプなど何度も困難にぶつかりながら高校卒業までやりきり、今も大学で競技を続けています。大学では高校と違い、ハンマーの規格が変わり6kgだったものが7.25kgへと1.25kg重くなっています。ハンマー投げは、重さが1kg違うと飛距離が7~10m変わってきます。私の高校時代のベスト記録は52mです。大学に入った今現在のベストは50mですので、記録は向上しているといえます。合同で練習しているトレーニング部のレベルの高い指導を受けさせてもらえることで、これまでより理に合ったトレーニングができ、それが体力の向上に繋がり、ハンマー投げの記録にも反映されていると思います。今後は現在の状況に甘んじることなく、さらなる記録向上をめざしたいと思います。(文学部 森 大樹)



先輩からの手紙 —就職内定者—



就職内定 成せば成る!

総合政策学部総合政策学科 4年
立花 亮太
徳島県警察 内定

小さいころからの夢だった警察官になるために徳島文理大学総合政策学部総合政策学科に入学しましたが、正直なところ、胸を張って勉強に取り組んできたと言える4年間ではなかったので、まさか自分がこのような後輩へのメッセージを書くとは夢にも思いませんでした。

こんな私ですが、3年生の10月ごろから自分のペースで過去の警察官採用試験問題集での学習と、何より1次試験の体力試験合格をめざし、空いた時間にスポーツクラブに通い、体力作りに努力を重ねました。

これから警察官をめざす後輩の皆さんへのアドバイスは、どんなときも最後の最後まで絶対にあきらめないということです。「絶対絶命だ」と思ってもへこまず、自分を信じて前に進む努力をしてください。タイトルのごとく「成せば成る!」の精神で強い気持ちをもって、就職活動がんばってください。



就職内定 就職活動は事前の準備が大切

短期大学部商科 2年
佐々木 千明
徳島銀行 内定

私は、1年生の前期からあらかじめ就職を希望する業界を絞って勉強をしていました。自分が何になりたいのかということと何が得意かということを早期に理解することで目標も立てやすく、今何をすべきか、これから何をクリアしていけばよいかということが見えてくるので、就職活動の準備をとてスムーズに進めることができました。

準備をしっかりしておく就職活動が本格化してから焦る必要もありませんし、何より自分の今までの努力が自信へつながると思います。私がそうだったように、皆さんもはじめはあまりの会社の多さと業界の広さに戸惑うかと思いますが、その中から自分に合った会社を見つけ、納得のいく就職活動ができるようがんばってください。



就職内定 自分にあった就職先を見つける

保健福祉学部臨床工学科 4年
浅野 紗也
香川大学医学部附属病院 内定

私は就職活動に取り組むにあたって、5施設以上の病院を見学しました。たくさんの施設を見学することで、その施設が求める臨床工学技士像や業務内容などを比較することができ、自分に適した施設を見つけることができました。病院のホームページを見て施設の概要や特徴を知ること大切ですが、実際に施設に足を運んで、その施設の方々と接することで自分だけでは得ることのできなかった施設の良さや、自分には合わない部分などの情報を得ることができる良い機会だと思います。

就職活動中は、悩んで立ち止まってしまうこともあります。そんな時は一人で悩まず、友人や先生などに頼ることも大切です。また、焦るあまり、自分のやりたいことを無視して就職活動に取り組んでしまう人もいますが、焦らず自分に適した施設を見極めて、希望する施設に就けるようがんばってください。



就職内定 就職活動を振り返り

文学部英語英米文化学科 4年
小山 恭平
株式会社ハヤシ 内定

私の就職活動は徳島キャンパスで行われた学内合同企業説明会から始まり、内定をいただいた「株式会社ハヤシ」はその際に訪問したブースの1つでした。

就職活動中に「就職活動は恋愛と似ている、企業(相手)に顔と名前を覚えてもらわない限り採用(付き合う)はありえない」という話を聞きました。話す時はハキハキと、緊張していても笑顔で、挨拶や返事、お礼などはしっかりするなど当たり前のことをきちんとすることで好印象を与えることや、説明会や選考の時に何か質問をすることで自分のことを相手に覚えてもらえるよう意識しました。

就職活動を終えて大切だと感じたことは自分を良く見せようと偽らずにありのままの自分で臨むこと、他人と自分を比べずに自分のペースで就職活動を進めていくことです。

困ったことや分からないことがあれば就職支援部に行けば力になってくれます。ご縁のある企業が必ずあると思うので、皆さんも就職活動をがんばってください!

先輩からの手紙 —教員採用試験合格者—



教員採用 皆さんに伝えたいこと

人間生活学部児童学科 4年
真喜屋 葉月
神奈川小学校教育 合格

私が皆さんに伝えたいことは、教員採用試験では実践や実体験がいきるということです。私は、大学2年生の時に行った学習支援ボランティアや二度の教育実習でさまざまなことを学びました。実際に児童や先生方と関わることで、自分自身が大きく成長し、「小学校の先生になりたい」と改めて感じました。そこで学んだことは自信にもつながり、教員採用試験の面接の場でもいかされました。この経験から、教員をめざす皆さんに伝えたいことは、教育実習の一日一日を大切に、いろいろなことを吸収して、自信や成長につなげてほしいということです。

教師をめざしていく中で行き詰まったときには、大学の先生方を頼ってください。こんなにも親身になって考えてくれる先生方はいないと思います。もちろん自分で考えることも大切です。しかし、人に相談することでまた違う側面から何かが見えてくるかもしれません。力になってくださる先生方と、同じ夢を持つ友人と支え合いながら、刺激し合って夢をつかんでほしいと思います。



教員採用 自分の夢をかなえる

人間生活学部児童学科 4年
山口 夏季
多度津町幼稚園教諭 合格

私は幼いころから幼稚園教諭になるのが夢でした。大学に入り講義などで専門的な知識を学ぶのはもちろん、保育所で保育を援助するボランティアも行い、「子どもとかかわる機会」を大切にしてきました。

3年生の後期から本格的に勉強をはじめ、先生方や先輩にたくさんのアドバイスをいただきました。毎日勉強を続けることはとても大変で、投げ出したくなることもありました。しかし私は「自分の夢をかなえる」という強い気持ちと実習で出会った子どもたちに教師になって、もう一度会いたいという想いを胸に日々がんばりました。

努力は決して裏切りません。周りのサポートしてくれる方々への感謝を忘れず、自分の夢に向かってがんばってください。



教員採用 出会いが道をつくる

人間生活学部食物栄養学科 4年
登井 真子
大阪府中学校教諭 合格

私が教員採用試験を経験して得たものは、合格という結果だけではなく、多くの方々との出会い・つながりの大切さです。面接練習や模擬授業では、教職の先生をはじめ家庭科、食物栄養学科の先生方、数多くの先生方に温かいご指導・ご支援をいただきました。

また、同じ夢を追う他学科の方とも互いに情報を共有し、健闘を誓い合いました。私のバックグラウンドには常に多くの方々がいてがんばれる源になっており、その方々への恩返しは結果で返すことでした。

学んで身につけていくものは目にみえないものもあるので不安になりますが、自分を信じて逃げ出さない限り、結果は裏切らないということをこの経験から学びました。

皆さんも多くの出会いとつながりを大切に、夢に向かってがんばってください。



教員採用 自分自身を知ること

人間生活学専攻科人間生活学専攻 1年
中山 美里
高知県養護教諭 合格

私は、養護教諭になりたいという強い思いとともに、徳島文理大学で学びを深めてきました。

大学では、自分が興味を持っていることだけでなく、苦手なことも含め、「何でも意欲的にやってみる」という気持ちでさまざまなことに挑戦してきました。教員として子どもたちと関わるうえで、自分自身も常に学び続け、成長しようとするのがとても大切だと感じたからです。小学校での学習支援員のボランティアでは、子どもたちとの関わりの中からはじめて見えてきたことや、学ぶことがたくさんありました。子どもたちや学校の実態等を実践とおして知ることができたのは、何よりも勉強になりました。

教員採用試験へ向けての勉強は長丁場なので、時にはつらく疲れることもありましたが。そんなときには、同じ夢を持った仲間と励まし合い、そしてたくさんの先生方や先輩方に支えていただきました。たくさんの人々との出会いや環境に感謝する気持ちを大切に、自己実現に向かってがんばってください。



人間生活学部食物栄養学科

【連載】研究室への誘い

- 人間生活学部食物栄養学科 准教授 近藤 美樹
- 人間生活学部食物栄養学科 3年 植田 玲奈
- 人間生活学部食物栄養学科 3年 山下 夏海

●近藤先生にお聞きします。食物栄養学科の学びのポイントを教えてください。

食物栄養学科における学びのポイントは3つあります。まず1つめはカウンセリング技法など栄養指導の体験授業が豊富にあります。栄養教育に必要な行動科学理論やカウンセリング技法、栄養教育マネジメント、栄養・運動指導ケアプランを作成指導する授業や実習をとおして的確に指導する力を修得します。2つめは生活習慣病予防がテーマの独自のプログラムが充実しています。管理栄養士を養成する本学科では、徳島県と連携して糖尿病をはじめとする独自のプログラムを実施し、学生たちも自主的に参加して、研究活動を行っています。3つめは全員合格を目標とした管理栄養士の国家試験対策講座があります。管理栄養士養成49年の実績をいかし、4年生を対象にした「管理栄養士国家試験対策講座」では、

各分野別のきめ細かい指導を行っています。

●食物栄養学科にはどんな研究室（各研究室の研究テーマなど）がありますか？

橋田誠一 研究室（学科長）

- ・超高度免疫測定系の構築と測定の自動化への移行
- ・産官学の連携研究により、研究成果の社会移転をめざしている。

石堂一巳 研究室

- ・老化と細胞死 一この不思議な関係
- ・タンパク質の分解を調節することにより、老化の防止とガンの発生を抑制することをテーマに研究を行っている。

稲井玲子 研究室

- ・子どもの体づくりにおける生活リズムと唾液ホルモンの関係

- ・機能性食品の生態におよぼす影響（玄米発酵粉）

犬伏知子 研究室

- ・徳島県の小学生および中学生の食事内容と、糖尿病との関連
- ・栄養、運動指導介入が身体組成、骨密度、足指筋力におよぼす影響

小川直子 研究室

- ・生活習慣病予防、特に糖尿病予備群者に向けた効果的な栄養教育方法の開発・実践を行っている。現在はICTによる栄養教育の実践にも取り組んでいる。

近藤美樹 研究室

- ・食品の調理・加工による機能性成分の変化と効果の検証
- ・野獣肉の有効利用をめざしたシカ肉料理の開発 など

坂井隆志 研究室

- ・栄養摂取による、代謝性疾患（糖尿病など）・炎症性疾患（癌など）の発症機構への影響を検討し、食物学的予防・治療法の確立を試みる。

津田とみ 研究室

- ・科学的根拠にもとづいた臨床栄養学に求められる栄養診断標準化の推進
- ・生活習慣病/糖尿病等予防に向けた食欲調節と肥満の研究 など

中橋乙起 研究室

- ・糖尿病、腎臓病、炎症や貧血といった病態におけるビタミン・ミネラル代謝の変動について研究し、病態に応じた栄養管理法の発展をめざす。

松原恵子 研究室

- ・大量調理施設の給食経営管理実習における HACCP の概念を実践し、衛生管理の基本を体得させる。
- ・栄養教諭としての実践力を培う。

●学生さんたちの雰囲気はいかがですか？ なかでも、このコーナーで取材する学生さんは、どのように取り組まれていますか？

食物栄養学科の学生が主体となっているサークル、文理食生活研究会などの活動を通して、先輩・後輩の仲も良く、勉強や生活面などで協力し合える環境にあります。また卒業論文では、熱心に研究に取り組み、自ら考えて工夫するとともに、積極的に新しい情報を取り入れて研究を展開しています。

●続いて植田さん、山下さんにお聞きします。現在所属している研究室を選んだきっかけ、理由を教えてください。

植田：食物栄養学科の卒業論文には、ゼミタイプと研究タイプの2種類があります。はじめ、私はどちらにするか迷いましたが、学生の今しかできないことをしたいと思い、研究タイプの卒業論文に決めました。いろいろな先生方の研究内容を聞いた中で、特に気になったのが近藤研究室でした。新しく始める予定のシカ肉の実験があると聞き、ぜひやってみたいと思いました。また、この研究はシカ肉の有効活用により、地域の活性化を図る取り組みが目的であり、大学の研究プ

ロジェクトにもなっています。私自身も「食」について興味があったので、近藤研究室を選びました。

山下：私は将来、医療の現場で働きたいと思っています。また、食べることが好きな私は食事療法で病気を治していく管理栄養士という職業に興味をもち、管理栄養士をめざしています。近藤研究室では、古代米に含まれている機能性成分の研究や動物実験を行っているのを知り、研究と実験で培った知識や経験が将来につながると思い近藤研究室を選びました。

●現在の研究内容を教えてください。

植田：徳島県をはじめ、各地でシカやイノシシなどの有害野獣対策として、個体数の調節が行われていますが、シカ肉料理の普及率は低く、捕獲量に対する十分な流通販路が確立されていないことが問題の一つになっています。シカ肉は栄養性・機能性の点で価値の高い食材であるため、これらの有効活用をめざしています。シカ肉料理の普及率向上のために、まず食味上の問題点である「臭い」や「硬さ」を改善します。臭気成分を吸着する物質を利用した下処理方法や加熱条件を変えて、成分分析や官能検査によって、臭いが少なく軟らかく仕上げる方法を検討しています。機能性成分の分析では高速液体クロマトグラフィーを用いて、分析方法の確立を行っています。最終的に生肉や各種条件下で加熱した肉に含まれる成分を定量し、加熱調理による挙動を解析します。現在、ゼミの4年生の方々とメニュー開発を行っており、2016（平成28）年2月には学生食堂パウゼでシ

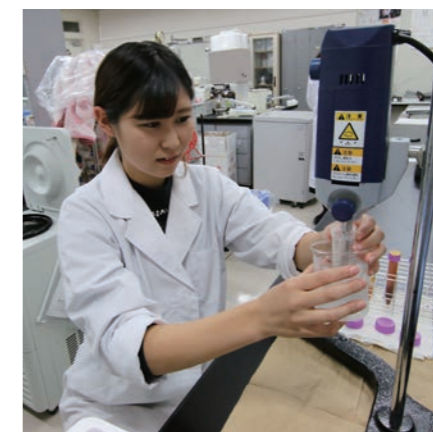
カ肉料理を提供予定です。

山下：徳島県では、栄養価の高さが注目されている黒米・赤米などの古代米が栽培されています。黒米にはアントシアニン、赤米にはタンニン系の色素が含まれており、強い抗酸化性を有することが知られています。そこで、これらの古代米を利用した新しい加工品を開発することを目的に、いろいろな方法で加熱した時の成分の変化を検討しています。さらに、高脂肪食に黒米を加えた餌でマウスを飼育した時に、黒米が肥満や脂質異常症におよぼす影響について研究を行っています。

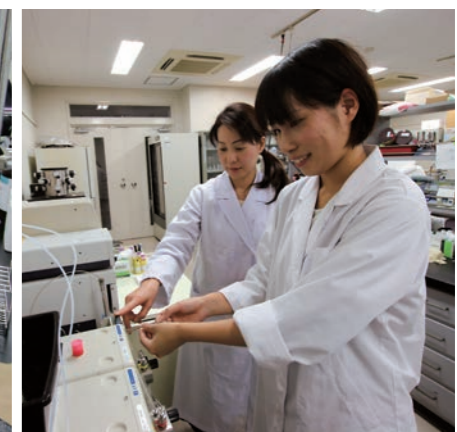
●これからの目標、将来の夢を教えてください。

植田：これからの目標としては、シカ肉が食卓でも並ぶように、普及率の向上をめざしたいです。また、栄養成分や機能性成分を保持した安全な加熱条件を設定し、加工品としても利用できるようにしていきたいです。これらの研究で培った技術や知識をいかして、管理栄養士として就職した際に、高齢者でも食べやすい柔らかな介護食を提供できるようにしたいです。

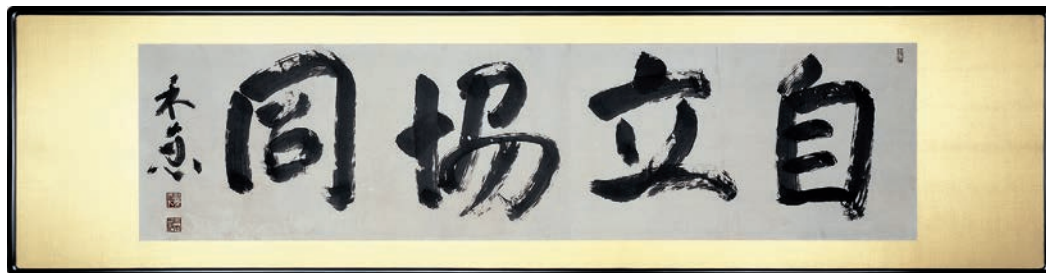
山下：将来の夢は、古代米の加熱処理による成分や機能性の変化について実験をしている経験を通して、患者さまの状態や好みに応じた食事を提供できる管理栄養士をめざしたいです。また、病気の予防が大切なので、古代米を食育に取り入れ、多くの人の健康増進に貢献していきたいです。これから管理栄養士になるために研究や勉強をがんばっていききたいと思います。



シカ肉からの機能性成分の抽出



高速液体クロマトグラフィーを用いたアントシアニンの分析



徳島文理大学の建学精神

「自立協同」の建学精神は、学祖村崎サイが1895年（明治28年）7月徳島に私立裁縫専修学校を設立した歴史に由来する。学祖は、「女も独り立ちが出来ねばならぬ」との信念を持ち「女性の自立」を唱えて村崎学園を創立した。1945年（昭和20年）7月、学園は戦火に包まれ灰燼に帰し、村崎サイも学園と運命を共にした。その年の秋、戦野から帰還した村崎凡人前理事長は、学園の復興に精魂を傾け、総合学園の建設をめざした。その過程で、「他からの協力、他への協力なくして、『人間の自立』はあり得ない」との確信に至り、学祖村崎サイの精神を受け継ぎ、「村崎学園」の建学精神を「自立協同」としたものである。この建学精神の意味するところは、生育してゆく人間として、「自立」は重要な到達目的であり、「協同」は「自立」を具現化する方法、とするものである。「協同」は「力を合わせて物事をする」となもので、個としての「自立」は、「協同」すなわち「他からの協力、他への協力」という体験の中で促される。「ヒト」はその体験を通して人間的な成長を遂げる。学園における教養的教育、専門的学術・芸術探求の教育は、まさに「人間の自立」を促す「協同」の場であらねばならない。爾来、本学はこのような学園の歴史に基づいた「自立協同」の建学精神のもと、教育を推進し、幼、小、中、高、大学、短大併せて9学部26学科、6大学院、3専攻科、そして、5研究所、1相談室を有する総合学園として発展してきた。今後とも建学の精神のもと、ますます精進し、学術・芸術の探究を通して未来を創造する大学でありたいと願っている。

徳島キャンパス（徳島県徳島市山城町）

- 大 学 院……薬学研究科(博士課程)／人間生活学研究科(博士課程)／看護学研究科(博士課程)／総合政策学研究科(修士課程)
- 専 攻 科……人間生活学専攻科(児童学専攻・人間生活学専攻)／助産学専攻科／音楽専攻科(器楽専攻・声楽専攻)
- 薬 学 部……薬学科
- 人間生活学部……食物栄養学科／児童学科／心理学科／メディアデザイン学科／建築デザイン学科／人間生活学科
- 保健福祉学部……理学療法学科／看護学科／人間福祉学科
- 総合政策学部……総合政策学科
- 音 楽 学 部……音楽学科
- 短期大学部……商科／言語コミュニケーション学科／生活科学科／保育科／音楽科

香川キャンパス（香川県さぬき市志度）

- 大 学 院……薬学研究科(博士課程)／工学研究科(博士課程)／文学研究科(博士課程)
- 香川薬学部……薬学科
- 保健福祉学部……診療放射線学科／臨床工学科
- 理 工 学 部……ナノ物質工学科／機械創造工学科／電子情報工学科
- 文 学 部……文化財学科／日本文学科／英語英米文化学科

徳島文理大学ホームページ

<http://www.bunri-u.ac.jp>



校章の由来…Acanthusとは、アカンサス属の一種、アカンサス・モルリスの葉で、別名ハアザミ。その刺は、事に当たって厳正、的確に処理する優れた知性を、その葉は古代ギリシャの美または芸術に通ずる豊かな情操を具象化し、本学の建学精神である「自立」を具現化した科学と芸術を示すものとして校章に制定されました。